

令和5年度 学校評価 最終評価報告

石川県立錦城特別支援学校

重点目標	具体的取組	担当	実現状況の達成度 判断基準 【B以上で達成、C・D は工夫改善】	質問項目	最終集計結果	分析 (成果と課題)	評価																																																																		
(1) 授業改善と専門性の向上	① <授業改善> 「特別支援学校における教科指導の充実事業」の継続を踏まえ、職員全員で学校研究を推進し、授業改善を行う。	研究推進課 全学部	研究授業実施に向けた一連のプロセスをとおして教科の見方・考え方への理解が深まり、授業の工夫改善に取り組んだ職員の割合 5項目の質問に対しaまたはbと回答した職員の割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 <u>達成度判断基準</u> 5項目の質問に対し4項目以上aまたはbと回答した職員の割合が70%以上	【職員アンケート】5項目 ア. 研究会等を通して、児童生徒が働かせる（育てる）教科の見方・考え方を理解することができた。 イ. 研究会等を通して、深い学びを意識した手立てや支援・発問等について考えたり、意見を伝えたりした。 ウ. 研究会等を通して、深い学びにつながる授業づくりのプロセスを理解することができた。 エ. 普段の授業において、学習指導要領の目標・内容を意識し、教科の見方・考え方を働かせる場面を想定して授業づくりを行った。 オ. 普段の授業において児童生徒がその授業を通して学びとることを意識して問いを考え授業づくりを行った。	職員アンケートの「とてもできた・ややできた」項目数の割合 a とてもできた b ややできた c あまりできなかった d 全くできなかった ① a または b の回答が5項目 ② a または b の回答が4項目 ③ a または b の回答が3項目 ④ a または b の回答が2項目以下 達成度の割合（単位％） <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>小</th> <th>中</th> <th>高</th> <th>分訪</th> <th>全体</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>50.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>66.7</td> <td>78.4</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>41.7</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>16.2</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>33.3</td> <td>2.7</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>8.3</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>2.7</td> </tr> </tbody> </table> 各項目の「できた・ややできた」の割合（単位％） <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>小</th> <th>中</th> <th>高</th> <th>分訪</th> <th>全体</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>イ</td> <td>92.3</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>97.3</td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td>76.9</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>91.9</td> </tr> <tr> <td>エ</td> <td>92.3</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>66.7</td> <td>94.6</td> </tr> <tr> <td>オ</td> <td>76.9</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>66.7</td> <td>89.2</td> </tr> </tbody> </table> 【結果】A「①+②」=94.6%		小	中	高	分訪	全体	①	50.0	100.0	100.0	66.7	78.4	②	41.7	0.0	0.0	0.0	16.2	③	0.0	0.0	0.0	33.3	2.7	④	8.3	0.0	0.0	0.0	2.7		小	中	高	分訪	全体	ア	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	イ	92.3	100.0	100.0	100.0	97.3	ウ	76.9	100.0	100.0	100.0	91.9	エ	92.3	100.0	100.0	66.7	94.6	オ	76.9	100.0	100.0	66.7	89.2	アンケートの結果、4項目以上で「とてもできた・ややできた」と回答した教員（①+②）の割合は94.6%となり、A評価となった。中間評価のB評価（71.4%）に比べ、全体的に達成度が上がり、授業の工夫改善に取り組んだ教員が増加した。 項目別に見ると、項目アは全学部で100%となり、教科の見方・考え方の理解が深まっていることがわかる。それにより教科で育むべき資質能力が明確になり、授業改善のプロセスや普段の授業において取り組むべきことへの理解につながっていると考えられる（項目ウエ）。項目オは、教科指導の充実事業において重点的に取り組んできた内容であるが89.2%であった。深い学びの実現に向けて、児童生徒の思考を促すような中心発問やそれに対する児童生徒の反応を予想する力を課題として今後も工夫・改善に取り組んでいきたい。	A 達成
	小	中	高	分訪	全体																																																																				
①	50.0	100.0	100.0	66.7	78.4																																																																				
②	41.7	0.0	0.0	0.0	16.2																																																																				
③	0.0	0.0	0.0	33.3	2.7																																																																				
④	8.3	0.0	0.0	0.0	2.7																																																																				
	小	中	高	分訪	全体																																																																				
ア	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0																																																																				
イ	92.3	100.0	100.0	100.0	97.3																																																																				
ウ	76.9	100.0	100.0	100.0	91.9																																																																				
エ	92.3	100.0	100.0	66.7	94.6																																																																				
オ	76.9	100.0	100.0	66.7	89.2																																																																				
	② <専門性の向上> 児童生徒の特性や能力に応じ、確かな学びに繋がる授業を展開する。「社会に開かれた教育課程」を目指し主な教育	教務課	授業参観、学校公開等で授業内容に満足している保護者や関係機関職員の割合 5項目の質問に対しaま	【参観者アンケート】5項目 ア. 指導は児童生徒にとってわかりやすい。 イ. 児童生徒が落ち着いて学習できる環境や教材が用意されている。	各参観者アンケートの5段階評価の割合 a とてもそう思う b そう思う c あまり思わない d 思わない e わからない	授業参観（4月、1月）と学校公開（7月、11月）で左記の5項目について参観者アンケートを実施した。前期はウとオが達成基準に満たず、C評価であったが、後期は5	A 達成																																																																		

	<p>内容や目標等を明示する。</p>	<p>たはbと回答した保護者・関係機関職員の割合が90%以上の項目数 A：5項目 B：4項目 C：3項目 D：2項目以下</p> <p>達成度判断基準 5項目の質問に対しaまたはbと回答した保護者・関係機関職員の割合が90%以上の項目数が4項目以上</p>	<p>ウ. 児童生徒が自分の気持ちや考えを表現している。 エ. 児童生徒が主体的に活動していた。 オ. 表示してある年間指導計画を見て年間を通じて学習する内容や授業の目標がわかった。</p>	<p>達成度の割合（単位％）</p> <table border="1" data-bbox="1227 113 1733 312"> <thead> <tr> <th></th> <th>a</th> <th>b</th> <th>c</th> <th>d</th> <th>e</th> <th>a + b</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア</td> <td>61.5</td> <td>35.4</td> <td>3.1</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>96.9</td> </tr> <tr> <td>イ</td> <td>55.4</td> <td>40.0</td> <td>4.6</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>95.4</td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td>58.5</td> <td>33.8</td> <td>6.2</td> <td>0.0</td> <td>1.5</td> <td>92.3</td> </tr> <tr> <td>エ</td> <td>55.4</td> <td>38.5</td> <td>3.0</td> <td>0.0</td> <td>3.1</td> <td>93.8</td> </tr> <tr> <td>オ</td> <td>50.8</td> <td>41.5</td> <td>3.1</td> <td>0.0</td> <td>4.6</td> <td>92.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>【結果】 A 「a + b」 90%以上が5項目</p>		a	b	c	d	e	a + b	ア	61.5	35.4	3.1	0.0	0.0	96.9	イ	55.4	40.0	4.6	0.0	0.0	95.4	ウ	58.5	33.8	6.2	0.0	1.5	92.3	エ	55.4	38.5	3.0	0.0	3.1	93.8	オ	50.8	41.5	3.1	0.0	4.6	92.3	<p>項目すべてにおいて a + b が 90%以上でA評価となった。特に前期 85.5%であったオについては、受付に案内を掲示したり、公開授業担当者には見やすい場所へ掲示するよう周知したりした。「年間を通じての目標などがきちんと考えられている」という意見があった一方で「見るのを忘れてしまう」「どこにあるかわからなかった」というご意見もあったため参観者全員が見ていただけるように工夫して、「社会に開かれた教育課程」を目指したい。</p>
	a	b	c	d	e	a + b																																									
ア	61.5	35.4	3.1	0.0	0.0	96.9																																									
イ	55.4	40.0	4.6	0.0	0.0	95.4																																									
ウ	58.5	33.8	6.2	0.0	1.5	92.3																																									
エ	55.4	38.5	3.0	0.0	3.1	93.8																																									
オ	50.8	41.5	3.1	0.0	4.6	92.3																																									
	<p><ICTの活用> 児童生徒の障害特性を踏まえたICTの活用を工夫し、深い学びに繋がる授業を実践する。</p>	<p>情報支援課 全学部</p> <p>1人1台タブレット端末を個別または集団学習で効果的な活用を目指した職員の割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満</p> <p>達成度判断基準 授業でタブレット端末を使用し、効果的な活用を目指した職員の割合が、70%以上</p>	<p>【職員アンケート】2項目 ア. チーフを担当する授業でタブレット端末を使用した。 イ. （「毎回使用した」「時々使用した」と回答した職員が）タブレット端末の効果的な活用を目指した。</p>	<p>ア. チーフを担当する授業でタブレット端末を使用した職員の割合(35人中)</p> <p>a 毎回使用した :28.6%(10人) b 時々使用した :68.6%(24人) c あまり使用しなかった :0.0%(0人) d 全く使用しなかった :2.8%(1人)</p> <p>イ. アでaまたはbと回答した職員のうち、効果的な活用を目指した職員の割合(34人中)</p> <p>a 効果的な活用を目指した :97.1%(33人) b 効果的な活用を目指さなかった:2.9%(1人)</p> <p>【結果】 A 94.3%(35人中33人)</p>	<p>授業でのタブレット端末の活用については、97.2%が「a 毎回/b 時々使った」と回答しており、前期から18ポイント増加した。そのうちの97.1%が効果的な活用を目指した。授業でタブレット端末を「d 全く使わなかった」と回答した2.8%の理由は、「タブレット端末を効果的に使う場面を作り出すことができなかったため」ということで、児童生徒の発達段階やその指導目標によって活用が難しい授業があった。タブレット端末を活用した効果的な授業づくりについては、今後も学校全体で取組みを推進し検討していく。</p> <p style="text-align: right;">A 達成</p>																																										
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>		<ul style="list-style-type: none"> 先生方が授業改善に取り組んでいることがアンケートの項目や結果からよく分かった。 特別支援教育の免許状取得率の向上が専門性の向上とつながるように今後も研鑽して行ってほしい。 																																													
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策</p>		<ul style="list-style-type: none"> よい授業を行うことが児童生徒の思考を促し、深い学びに繋がるため、今後も授業改善を継続する。 特別支援教育の専門性を学校研究と関連付け、授業づくりに関する知識や理解を深め、教員一人一人の専門性の向上に努めていく。 																																													

<p>(2) キャリア教育の推進</p>	<p>① <プログラムの活用> 錦城版キャリア教育プログラム(改訂版)を活用し、キャリア教育の教育実践を発信し、家庭との連携を図る。</p>	<p>進路支援課 キャリア教育委員会 各担任</p>	<p>キャリア教育プログラムに基づいた具体的な教育実践を理解し、家庭等でも取り組んでいる保護者の割合</p> <p>A : a + b = 75%以上 B : a + b = 65%以上 C : a + b = 55%以上 D : a + b = 55%未満</p> <p>達成度判断基準 家庭で取り組んでいる保護者の割合が65%以上</p>	<p>【保護者アンケート】1項目 ア. キャリア発達につながる具体的な内容について家庭で取り組んでいるか。</p>	<p>ア. 現在のキャリア発達に関する取り組みについて</p> <p>a 新たに取組みを行った : 7.5% b これまでの取組みを継続 : 55.5% c まだ実践できていないが新たな取組みについて考えた : 11.1% d 今後考えたい : 18.5% e わからない : 7.4%</p> <p>【結果】 C 「a+b」=63.0%</p>	<p>アンケートの回答があった保護者のうち、家庭で取り組んでいる方は全体の63%となり、中間評価から8ポイント向上が見られた。 また、家庭での取組みを行う際に参考になった情報については「担任との懇談」が85%、「参観や懇談での授業の様子」が58%と学校からの情報が多数を占めた。 来年度に向けて懇談等と一緒に考えながら、取組みを進めていく必要があると考える。</p>	<p>C 未達成</p>
	<p>② <進路支援の充実> 保護者も交えた進路研修会等を継続しキャリア教育や進路支援の充実を図る。</p>	<p>進路支援課</p>	<p>キャリア教育や進路に関する研修会等の内容に満足している保護者・職員の割合</p> <p>A : a + b = 80%以上 B : a + b = 70%以上 C : a + b = 60%以上 D : a + b = 60%未満</p> <p>達成度判断基準 進路に関する研修会等内容に満足している保護者・教員の割合が70%以上</p>	<p>【保護者アンケート(参加者のみ)】 【職員アンケート】1項目 ア. 前期就業体験実習報告会、進路研修会(卒業後の福祉サービス等の概要について)を通して取組みや概要等が理解でき参考になったか。</p>	<p>ア. 保護者アンケート 実習での生徒の取組み等が</p> <p>a よくわかりとても参考になった : 66.7% b 概ねわかり参考になった : 33.3% c あまりわからず参考になった : 0% d 全くわからず参考にならなかった : 0%</p> <p>【結果】 A 「a+b」=100%</p> <p>ア. 職員アンケート 「進路指導の手引き」の内容や高等部卒業後の働く姿、そのために取り組むべきことについて、</p> <p>a よく理解でき参考になった : 55.2% b 概ね理解でき参考になった : 44.8% c あまり理解できず参考にならなかった : 0% d 全く理解できず参考にならなかった : 0%</p> <p>【結果】 A 「a+b」=100%</p>	<p>進路関係行事や進路研修会に参加した全保護者が、実習での生徒の取組み等が分かり、子どもの進路について考える時の参考になったと回答した。反面、参加する保護者が固定化されてきているため多くの保護者のニーズを集約しそのニーズにあった研修会を企画することで、多くの保護者の参加を促していく必要があると考える。 職員アンケートでは、全職員が進路研修会を通して「進路指導の手引き」の内容や高等部卒業後の働く姿、そのために取り組むべきことについて、理解でき、参考になったと回答した。卒業後の姿を具体的にイメージするために、来年度は、卒業生の就労先の見学ができればよいと考える。</p>	<p>A 達成</p>

③	<p><社会で生きる力の育成> 学校間交流や居住地校交流合同学習、地域交流等をとおして、人間関係形成・社会形成能力の育成を目指す。</p>	各 部 各 担 任	<p>児童生徒一人一人が、自ら活動に参加したり交流相手と関わろうとしたりする姿が見られた割合</p> <p>A : a + b = 70%以上 B : a + b = 60%以上 C : a + b = 50%以上 D : a + b = 50%未満</p> <p>達成度判断基準 交流等において自ら活動に参加し、相手と関わろうとしていた児童生徒の割合が60%以上</p>	<p>【職員アンケート】2項目</p> <p>ア. 学校間交流等において児童生徒が自ら活動に参加する姿が見られた。</p> <p>イ. 交流相手に関わろうとする姿が見られた。</p>	<p>ア. 自ら活動に参加する姿が「よく見られた」「見られた」児童生徒の割合</p> <p>a よく見られた b 見られた c あまり見られなかった d ほとんど見られなかった</p> <p>達成度の割合 (%)</p> <table border="1" data-bbox="1223 363 1671 528"> <thead> <tr> <th></th> <th>小</th> <th>中</th> <th>高</th> <th>全体</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a</td> <td>37.5</td> <td>30.8</td> <td>63.2</td> <td>44.7</td> </tr> <tr> <td>b</td> <td>58.3</td> <td>69.2</td> <td>36.8</td> <td>53.6</td> </tr> <tr> <td>c</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>d</td> <td>4.2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>【結果】 A 「a + b」 = 98.3%</p> <p>イ. 交流相手に関わろうとする姿が「よく見られた」「見られた」児童生徒の割合</p> <p>達成度の割合 (%)</p> <table border="1" data-bbox="1223 815 1671 979"> <thead> <tr> <th></th> <th>小</th> <th>中</th> <th>高</th> <th>全体</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a</td> <td>12.5</td> <td>23.1</td> <td>42.1</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>b</td> <td>41.7</td> <td>61.5</td> <td>52.6</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>c</td> <td>45.8</td> <td>15.4</td> <td>5.3</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>d</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>【結果】 A 「a + b」 = 75%</p>		小	中	高	全体	a	37.5	30.8	63.2	44.7	b	58.3	69.2	36.8	53.6	c	0	0	0	0	d	4.2	0	0	1.8		小	中	高	全体	a	12.5	23.1	42.1	25	b	41.7	61.5	52.6	50	c	45.8	15.4	5.3	25	d	0	0	0	0	<p>小学部は前期に比べ、自ら活動に参加する児童の姿がよく見られた。相手校の児童からゲーム内容の説明を受けるなど、活動内容を工夫したことで、交流相手に関わろうとする姿が大幅に増えた。中学部は前期と比較すると、aの割合は減ったものの自ら交流の活動に参加したり積極的に相手に関わろうとしたりする生徒の割合は高かった。後期の交流の対象は保育園児だったため積極的に関わろうとしなければ交流が難しい生徒もいたと考えられる。教員からの声掛け等を工夫していきたい。高等部では、本校での実施により環境面で慣れていたり活動内容を双方が工夫したこと、また相手校への訪問も2回目ということなどから、積極的に参加し相手と関わろうとする姿が増えた。小・中・高と学部が上がるにつれ交流相手に関わろうとする姿がよく見られるようになるため、今後も様々な交流及び共同学習を通して人間関係形成・社会形成能力を育成していきたい。</p>	A 達成
	小	中	高	全体																																																					
a	37.5	30.8	63.2	44.7																																																					
b	58.3	69.2	36.8	53.6																																																					
c	0	0	0	0																																																					
d	4.2	0	0	1.8																																																					
	小	中	高	全体																																																					
a	12.5	23.1	42.1	25																																																					
b	41.7	61.5	52.6	50																																																					
c	45.8	15.4	5.3	25																																																					
d	0	0	0	0																																																					
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・担任から説明されたキャリア教育プログラムの内容が家庭での取り組みとややつながりにくかった。 ・キャリア教育＝お手伝い、係の仕事という捉え方をすると小学部や障害の重い児童生徒の保護者が家庭で取り組むことが難しいと感じる。 																																																								
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育プログラムを保護者に提示・説明する時に「家庭でも取り組んでいるかアンケートを取る」等とあらかじめ伝えるようにする。 ・ライフキャリアの理解を深め、一人一人のキャリア発達を促す取り組みが家庭でもできるように保護者向けのお知らせ等を出す。 																																																								

<p>(3) 安心・安全な学校づくり</p>	<p>① <健康・安全・防災に関する教育活動の充実> 健康・安全・防災に関する指導を授業や行事等において実践する。</p>	<p>指導課 保健課 各部</p>	<p>学校保健計画や学校安全計画の月別目標を基にした指導や話を各部で行った回数の割合</p> <p>A : 80%以上 B : 70%以上 C : 60%以上 D : 60%未満</p> <p>達成度判断基準 月別目標を基にした指導や話をを行った回数の割合が70%以上</p>		<p>(実施○、未実施●)</p> <table border="1" data-bbox="1243 127 1713 486"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">指導課</th> <th colspan="3">保健課</th> </tr> <tr> <th>小</th> <th>中</th> <th>高</th> <th>小</th> <th>中</th> <th>高</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>5月</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>6月</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>7月</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>9月</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>10月</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>11月</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>12月</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>1月</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>2月</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> </tbody> </table> <p>【結果】指導課 <u>A「27/27」100%</u> 保健課 <u>A「27/27」100%</u></p>		指導課			保健課			小	中	高	小	中	高	5月	○	○	○	○	○	○	6月	○	○	○	○	○	○	7月	○	○	○	○	○	○	9月	○	○	○	○	○	○	10月	○	○	○	○	○	○	11月	○	○	○	○	○	○	12月	○	○	○	○	○	○	1月	○	○	○	○	○	○	2月	○	○	○	○	○	○	<p>□指導課 全校集会や各部集会の場で、学校安全学習を行った。各部の実態に応じた内容で指導し、児童生徒が話やモニター画面に注目して見聴きする様子が見られた。また、指導課員が全体の場で指導することにより、他の教員も同様に、児童生徒に声かけする場面が明らかに多くなったと言える。教員が共通理解のもと、安全指導ができるようになってきている。</p> <p>□保健課 保健目標の指導を全校集会時に全校児童生徒を対象に、全校集会がない月は、各部で児童生徒の実態に合わせ、イラストや写真を使ったスライドで行った。小学部では、スライドに注目したり、○×クイズに意欲的に答えたりする児童の姿が見られるようになってきている。中学部、高等部では、「今月の目標は？」と質問すると、答えられる生徒が増えてきており、保健目標を意識した学校生活を送れるようになってきている。また、自分の行動について、考える良い機会となっている。</p>	<p>A 達成</p>
	指導課			保健課																																																																															
	小	中	高	小	中	高																																																																													
5月	○	○	○	○	○	○																																																																													
6月	○	○	○	○	○	○																																																																													
7月	○	○	○	○	○	○																																																																													
9月	○	○	○	○	○	○																																																																													
10月	○	○	○	○	○	○																																																																													
11月	○	○	○	○	○	○																																																																													
12月	○	○	○	○	○	○																																																																													
1月	○	○	○	○	○	○																																																																													
2月	○	○	○	○	○	○																																																																													
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>		<ul style="list-style-type: none"> 毎月、安全指導や保健指導を行っている成果を検証するために保健室の来室状況の変化を見てはどうか。ヒヤリハットや事故報告の件数が安全指導を充実させることで減るとよい。 地震等の災害が多いため、危機管理マニュアルを見直し、訓練等についてもより実践的に行えるとよい。 																																																																																	
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策</p>		<ul style="list-style-type: none"> 保健室の来室状況の変容や事故報告との関係等についても考察していく。また、教員の指導の成果が保護者に分かりやすいような取組みも考えていく必要がある。 能登半島地震での反省や課題が明確になったため、改善に取組み、安心・安全な学校づくりに一層努めていく。 																																																																																	

<p>(4) 業務の効率化の工夫 業務の効率化</p>	<p>① <業務の平準化と環境改善> 分掌業務のデジタル化を更に推進し、特定の時期や教員に集中しがちな業務を分担し協働的に働ける組織作りを目指す。</p>	<p>教頭 各課 全学 学部</p>	<p>各部・各課（計 12 部署）において業務のデジタル化や業務の偏りの平準化に努め協働的に業務を行うことで効率よく業務を行えた部・課の割合</p> <p>A : 10/12 以上 B : 8/12 以上 C : 6/12 以上 D : 4/12 以下</p> <p>達成度判断基準 効率化を図った部・課が 8 部署以上</p>	<p>【職員アンケート】1項目 ア. 今年度、業務の平準化またはデジタル化を行い、効率化を図った。</p>	<p>今年度、業務の平準化、デジタル化を行い効率化を図った課、部 12 部署</p> <p>今年度、業務の平準化、デジタル化を行わなかった課、部 0 部署</p> <p>【結果】 A 「12/12」 100%</p>	<p>12 の部署のうち全ての部署においてデジタル化を進め、効率化を図ったという回答を得られた。年度当初よりほとんどの課や部でペーパーレス化に取り組んだり、業務が偏らないよう調整したりする等の工夫が見られた。ただ業務の平準化が難しい課や分散化が難しい業務内容もあり、どのような課題があるか検証し改善する必要がある。業務の平準化を進めるには年間の業務を可視化し、進捗状況を確認するなどの取組みが有効である。その他にもいろいろな意見を取り入れ実施できることは全校で取り組んでいきたい。</p>	<p>A 達成</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>		<ul style="list-style-type: none"> 先生方の業務改善については、自分や周囲の業務を見直し、先生方が気づいたことを学校運営に反映させていってほしい。 今後も先生方の多忙化改善に学校全体で取り組んでいってほしい。 					
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策</p>		<ul style="list-style-type: none"> 会議資料のペーパーレス化は課や各部で行われているので、今後は外部や保護者向けのお知らせ等もペーパーレス化に向け検討し、体制を整え、実施していく。 学校全体の業務を可視化できるように課のハンドブックやスケジュール等を活用しながら、業務の効率化と平準化に取り組んでいく。 					